

藤田医科大学

2019 年度

第 1 回アセンブリ教育ワークショップ

テーマ：

「新しいアセンブリ 1 のプログラム検証」

2019 年 7 月 15 日（祝月）

大学 3 号館 4 階

アクティブ・ラーニング室



## 概 要

現在のアセンブリ教育には、アセンブリⅠ（1年生）、アセンブリⅡ（2年生）、アセンブリⅢ（主に3年生）、アセンブリⅣ（4年生以上）トライアルがあります。アセンブリ教育は、**専門職連携教育**であり、アセンブリⅢ、Ⅳでは、**専門職連携**を学びます。この際、アセンブリⅠ、Ⅱが基盤となります。

アセンブリⅠは、開学以来50年近く続いているプログラムです。多彩な班活動（運動・文化・実験）に分かれて、学生が別々のプログラムを受講します。学生が教員の関心のある活動に参加しますので、連帯感が生まれます。反面、学生を客観的に評価しづらいという問題を秘めています。

この度、アセンブリⅠを全面的に見直し、2020年度から「**他者とのコミュニケーション**」を学ぶプログラムに作り直します。「1. 他人に**関心をもつ**、2. **傾聴**する、3. **質問**する」ことを重点的に学修します。「他人に関心をもつ」には、「他者を**尊重（リスペクト）**する」ことへの思いを込めました。1年生全員（約600人）を6教室に分け、小グループ学修を行います。各教室に5名の教員を配置し、通年の授業を行います。現在、古澤彰浩副センター長（アセンブリⅠ担当）と米本倉基先生（活動推進員）が中心となり、プログラムの構築を進めています。

今回のワークショップには、三重大大学の後藤道子先生を外部講師に招聘し、37名の教職員が参加しました。4つのグループに分かれて、1つのプログラム（「**バスは待ってくれない**」）を体験し、検証しました。参加者に対するアンケート調査（巻末）より、全ての教職員がプログラムの内容を理解することが出来き、新プログラムに対する期待も寄せられました。担当教員のスキルアップが喫緊の課題となり、現在、トレーニングを計画中です。また、従来のように多数の教員がアセンブリⅠに参加しなくなり、一部の教員への負荷が増大します。それ故、**アセンブリ教育についての教育業績**を適切に評価することが必要となります。

アセンブリ教育センター長  
大槻 眞嗣

# 第1回アセンブリ教育ワークショップ

## スケジュール

### WS1 (7月15日) 進行表

会場：大学3号館4階412アクティブラーニング室

時刻	時間	内 容
9:30	30分	スタッフ集合&打ち合わせ
10:00	20分	受 付
		Opening
10:20	05分	学長 挨拶
10:25	10分	センター長 挨拶/本日のワークショップの目標
10:35	10分	記念写真
		Mini Lecture
10:45	15分	アセンブリ教育の連続性について
11:00	45分	2020年度アセンブリⅠ改革案説明 (質疑応答を含む)
11:45	60分	(昼食)
		Group Work
12:45	10分	説明
12:55	80分	「バスは待ってくれない」 (質疑応答を含む)
14:15	10分	振返り
14:25	10分	アンケート記入
14:35	10分	(休憩)
		Discussion Meeting
14:45	30分	2020年度アセンブリⅠ改革に対する意見交換
		Closing
15:15	05分	まとめ 総評
15:20	05分	アンケート記入
15:25	05分	修了証授与
15:30	01分	閉会の辞
15:31		終了
16:00		片付け終了

# 第1回アセンブリ教育ワークショップ

## 参加者一覧

センター	所属		役職	氏名	チーム
センター長	医学部		教授	大槻 真嗣	タスクフォース
副センター長	医学部		准教授	古澤 彰浩	タスクフォース
副センター長	医療科学部	医療検査学科	教授	市野 直浩	タスクフォース
I	保健衛生学部	リハビリテーション学科	教授	米本 倉基	タスクフォース
戦略企画	医療科学部	医療経営情報学科	助教	村田 幸則	タスクフォース
	三重大学		助教	後藤 道子	タスクフォース
I	保健衛生学部	看護学科	教授	久納 智子	A
II	保健衛生学部	看護学科	助教	梅村 慶子	A
III	医学部		准教授	鏡 裕行	A
IV	医療科学部	臨床検査学科	教授	大橋 鈺二	A
IV	保健衛生学部	看護学科	講師	倉田 亮子	A
情報技術	医療科学部	医療経営情報学科	講師	堀場 文彰	A
担当事務	医学部		課長	横田 正明	A
副センター長	保健衛生学部	リハビリテーション学科	准教授	西井 一宏	B
I	医療科学部	臨床工学科	准教授	星野 弘喜	B
II	医療科学部	放射線学科	准教授	南 一幸	B
III	保健衛生学部	リハビリテーション学科	助教	伊藤 美保子	B
IV	保健衛生学部	リハビリテーション学科	助教	会津 直樹	B
戦略企画	保健衛生学部	看護学科	准教授	朝居 朋子	B
担当事務	医療科学部		主任	杉浦 幸代	B
副センター長	医学部		教授	角川 裕造	C
III	保健衛生学部	看護学科	准教授	宮本 美穂	C
IV	医療科学部	臨床工学科	教授	中井 滋	C
戦略企画	保健衛生学部	リハビリテーション学科	助手	渡 哲郎	C
担当事務	保健衛生学部			吉田 美佳	C
	医学部		准教授	若月 徹	C
副センター長	保健衛生学部	看護学科	教授	三吉 友美子	D
II	保健衛生学部	リハビリテーション学科	講師	三浦 恵二	D
III	医療科学部	放射線学科	准教授	梅沢 栄三	D
IV	医学部		兼任講師	後藤 和恵	D
戦略企画	医学部		教授	飯塚 成志	D
陪席	看専			吉川 英治	D
	医療科学部	看護学科	教授	中村 小百合	D
	ビジュアルセンター				撮影
	ビジュアルセンター				撮影
センター事務				松岡 透	事務
センター事務				高柳 友里	事務

第1回アセンブリ教育ワークショップ

【Opening】挨拶

学長 才藤 栄一 アセンブリ教育センター長 大槻 眞嗣





FUJITA HEALTH UNIVERSITY

## アセンブリ教育の連続性

アセンブリ教育 センター長  
大槻 眞嗣  
2019年 7月15日



### 社会の変化(1)

### 社会の変化(2)

### アセンブリ教育とは？

- アセンブリ教育は、教育である。  
IPE (Interprofessional education)
- 「患者の健康問題」に  
異なった専門職が連携し、取り組む

## アセンブリ教育 = 専門職連携教育

「患者の健康問題」に異なった専門職が連携し、取り組む



## アセンブリ教育の学修目標

- I.   
「患者<sup>注)</sup>の健康問題」を中心に考える。
- II.   
他者と円滑なコミュニケーションをとる。
- III. **専門職連携**
  - 1) 他職種の役割を理解し、尊重する。
  - 2) 自職種の役割を理解し、行動する。
  - 3) 異なった専門職が連携し、「患者<sup>注)</sup>の健康問題」に取り組む。

注)地域では地域住民、老健、福祉施設では利用者となる。

## 大切なこと(1)

- 他者のリスペクト(尊敬)  
**他者への関心**
- 他者とのコミュニケーション  
**傾聴**  
**質問**

## 大切なこと(1) ➡ アセンブリ I

- 他者のリスペクト(尊敬)  
**他者への関心**
  - 他者とのコミュニケーション  
**傾聴**  
**質問**
- アセンブリ I**  
他者との  
コミュニケーション
- アセンブリ II**  
**アセンブリ III**  
**自科実習**  
**アセンブリ IV**

## 大切なこと(2)

- 他者とは？
  1. **患者・家族**  
(地域住民)
  2. 他職種



## 大切なこと(2) ➡ アセンブリ II

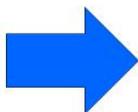
- 他者とは？
    1. 患者・家族
    2. **他職種**
- アセンブリ II**  
チーム、主体性  
**他学科の理解**

**異文化交流**

## 大切なこと(2) ➡ アセンブリⅢ

▪ 他者とは？

1. **患者・家族**
2. 他職種



アセンブリⅢ  
(TBL)  
**患者中心性**

## 大切なこと(3)

▪ 専門職連携

1. 自職種の役割
2. **他職種の役割**
3. 自職種  **他職種**

患者の健康問題に取り組む



## 大切なこと(3) ➡ 2学科での臨地実習

▪ 専門職連携

1. 自職種の役割
2. **他職種の役割**
3. 自職種  **他職種**

「患者の健康問題」に取り組む



2学科での  
臨地実習  
**他職種の役割**  
理解！

## 大切なこと(3) ➡ アセンブリⅣ

▪ 専門職連携

1. 自職種の役割
2. **他職種の役割**
3. **自職種**  **他職種**

「患者の健康問題」に取り組む



アセンブリⅣ  
(医療現場)  
**連携**  
自職種  **他職種**

## アセンブリ教育の学修目標

### I. 患者中心

「患者<sup>注)</sup>の健康問題」を中心に考える。

### II. コミュニケーション

他者と円滑なコミュニケーションをとる。

### III. 専門職連携

- 1) **他職種の役割**を理解し、尊重する。
- 2) **自職種の役割**を理解し、行動する。
- 3) 異なった専門職が**連携**し、「患者<sup>注)</sup>の健康問題」に取り組む。

注) 地域では地域住民、老健、福祉施設では利用者となる。

## アセンブリ教育 = 専門職連携教育



**他者への関心**  
**リスペクト**





19.7.15 アセンブリ教育ワークショップ  
「新しいアセンブリIのプログラム検証」

## 2020年度アセンブリIについて

副センター長(アセンブリ担当) 古澤 彰浩 (医学部物理学)

アセンブリI 教育改革WGにおいてまとめられた  
2020年度アセンブリI 活動案の説明

1. アセンブリ教育の目的・目標
2. 現行アセンブリIの総括
3. 新形式案について

「2020年度アセンブリI改革案説明」古澤 彰浩  
アセンブリ教育ワークショップ「新しいアセンブリIのプログラム検証」19.7.15

## アセンブリ教育の目的・目標

アセンブリ教育 = 「専門職連携教育」

学修目標

- 「患者中心」: 患者の健康問題を中心に考えることができる。
- 「コミュニケーション」: 他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。
- 「専門職連携」: 自職種・他職種の役割を理解・尊重し、それに基づいて行動できる。患者の健康問題を多職種で解決に向けて取り組むことができる。

アセンブリの目的  
全ての基本・起点となる「コミュニケーション」を身につける

「2020年度アセンブリI改革案説明」古澤 彰浩  
アセンブリ教育ワークショップ「新しいアセンブリIのプログラム検証」19.7.15

19/5/13 アセンブリ講演会後訓示資料 現行アセンブリIでの働きかけ

## アセンブリ教育とアセンブリI

- **アセンブリ教育とは一専門職連携のための基礎づくり**  
専門職連携は専門職に限らない  
事務管理者・その他専門職・ボランティア支援者・地域支援者など  
「職種・立場の違い」「個性の違い」が生む葛藤をどうやって超えるか
- **アセンブリの目的**
  - バックグラウンドや個性の異なる学生・教員・インストラクターとの活動
  - 様々なコミュニケーション (言語・非言語)

**「自他の違いを知る」「違いを受け入れる」ことを学ぶ機会**

「2020年度アセンブリI改革案説明」古澤 彰浩  
アセンブリ教育ワークショップ「新しいアセンブリIのプログラム検証」19.7.15

19/5/13 アセンブリ講演会後訓示資料 現行アセンブリIでの働きかけ

## アセンブリI概要

- **アセンブリの構成: 班活動+全学活動**
  - **班活動 (運動・文化・研究の3分野38班)**
    - 個人競技や会話が禁じられるものも
    - 色々な情報・意見交換、情報の読み合い (言語・非言語)
  - **全学講習会 (4種)**

救急救命講習



災害医療 (PFA) 講習



搬送法講習



コミュニケーション講習



「2020年度アセンブリI改革案説明」古澤 彰浩  
アセンブリ教育ワークショップ「新しいアセンブリIのプログラム検証」19.7.15

## 心がけてほしいこと

アセンブリの目的は

バックグラウンドや個性の異なる学生・教員・インストラクターとの活動  
「自他の違いを知る」「違いを受け入れる」ことを学ぶ

だけでなく

学べることはそれぞれ多様

だからこそ

各自が目的意識をもって貪欲に！

## インタビュー（雑談）

- ・ 班によって取り組みはまちまち（現1年生からの聞き取り）
- ・ 個人種目の運動班や個人技能系の文化班
  - ・ （活動の）スキルが上がった
  - ・ 話を全くしないことも
  - ・ 世間話的な交流
  - ・ 個人的に意識して積極的に接している
- ・ チーム活動系の班
  - ・ （活動の）スキルが上がった
  - ・ 楽しい、他学科の友達ができ
  - ・ コミュニケーションのスキルの向上には…？
  - ・ そもそも医療と関係ない

## 総括

アセンブリ活動と目標に結びつきを感じていない学生が少なからず存在

← 学生アンケート、様々な活動に対する学生の姿勢から示唆

多様な班活動 → 結びつきに統一性を持たせにくく、不明瞭  
(曖昧で不統一な評価基準)

目的・目標の多重化 → 班活動の内容そのもの ⇔ アセンブリ  
目標が比較的明確 目標が抽象的

学生・教員共に、目的・意義の結びつき意識が希薄／乖離



目的・目標・意義のつながりが明確で共有しやすい } 活動へ  
共同・協同しやすい

## 新形式：目的

- ・ コミュニケーションの基本を身につける
  - 自己と他者の認識
  - 多様性の受容
- + スキル

目的に直接つながる活動

## 新形式：到達目標

- ・ 身につけるべき姿勢・スキルを**具体的に**

- 「相手に関心を持つ」
- 「聴く」
- 「質問する」

具体的でわかりやすい目標

## 新形式：形式

- ・ 目標に通じるテーマごとの**経験学習（グループワーク）**

1. 解説（裏付け）
  2. グループワーク（楽しく体験・実感）
  3. 振り返り（フィードバック）
- } 1コマ  
x1~2コマ/テーマ  
xテーマ数

- ・ テーマの順序だて（習得の順番）の最適化

段階・進度のコントロール

### 新形式：構成案

【到達目標、又は、コンピテンシー】  
1. 相手に関心を持つ  
2. 聴く  
3. 質問する

基本的には現行と同じ時間帯  
【前期】(下記は例)

期	日	時間	テーマ	内容/ワーク	教室				
					1	2	3	4	5
1	4/20	14:50~16:50	はじめに	「バスは待ってくれない」	A	B	C	D	E
2	4/27	14:50~16:20	自分を知る	自分のタイプとスタイル	A	B	C	D	E
3	5/11	14:50~16:20	相手を知る	相手のタイプとスタイル	A	B	C	D	E
4	5/18	14:50~16:20	聴く(1)	難さあり	A	B	C	D	E
5	5/25	14:50~16:50	聴く(2)	難くレベル(深さ)	A	B	C	D	E
6	6/8	14:50~16:20	見る	観察力	A	B	C	D	E
7	6/15	14:50~18:20	振り返る(1)		A	B	C	D	E
8	6/22		講演会①(不孝会)						
9	6/29		講演会②(オリジナル)						
予備	7/6		予備日						
予備	7/13		予備日(補講)						

延長は可能? 必要?

どこに入れてもよい

ファシリテーター1名  
サポート教員3名  
学生6名x20チーム  
x5教室並行実施

『2020年度アゼンブリ1改革案説明』 古澤 アゼンブリ教育ワークショップ「新しいアゼンブリ」のプログラム検証」19.7.16

### 新形式：構成案

【到達目標、又は、コンピテンシー】  
1. 相手に関心を持つ  
2. 聴く  
3. 質問する

基本的には現行と同じ時間帯  
【後期】(下記は例)

期	日	時間	テーマ	内容/ワーク	教室				
					1	2	3	4	5
10	10/5	14:50~16:20	質問する(1)	誰かれた質問	A	B	C	D	E
11	10/19	14:50~16:50	質問する(2)	誰ぞされた質問	A	B	C	D	E
12	10/26	14:50~16:20	チームをつくる		A	B	C	D	E
13	11/2	14:50~16:20	対話する(1)	怒りのコントロール	A	B	C	D	E
14	11/9	14:50~16:20	対話する(2)	バスの中で	A	B	C	D	E
15	11/16	14:50~16:50	おわりに	(非公開)	A	B	C	D	E
16	11/30		アゼンブリIIの理解(ポスター発表会への参加)						
予備	12/7		予備日						
予備	12/14		予備日(補講)						

アゼンブリIIとの関連 別途検討必要

『2020年度アゼンブリ1改革案説明』 古澤 アゼンブリ教育ワークショップ「新しいアゼンブリ」のプログラム検証」19.7.16

### 新形式：体制

プログラムディレクター：米本先生

教室候補	大学2	大学3	大学3	大学3	大学3
ファシリテーター 予定	米本先生	大橋先生	若月先生	大江先生	服部先生
サポート教員	3名	3名	3名	3名	3名

サポート教員未定  
ファシリテーター、サポート教員は指導訓練を受ける予定

『2020年度アゼンブリ1改革案説明』 古澤 アゼンブリ教育ワークショップ「新しいアゼンブリ」のプログラム検証」19.7.16

### 新形式：教材

株式会社プレスタイム製「Creative O.D.」

講義資料

ワーク要領

163種の参加型研修ワーク集  
準備物リスト・配布物・講義資料を収録

第1巻目次

記入用紙など

『2020年度アゼンブリ1改革案説明』 古澤 アゼンブリ教育ワークショップ「新しいアゼンブリ」のプログラム検証」19.7.16

### 新形式：構築

株式会社プレスタイム製「Creative O.D.」他

163種の参加型研修ワーク集  
準備物リスト・配布物・講義資料を収録

目的のテーマに沿ったワークを抽出・組み合わせ(アレンジ)

アゼンブリ  
コミュニケーション講座を構築

本日午後、収録ワーク「バスは待ってくれない」を模擬実施  
目的：新形式のデモンストレーション  
問題点・要検討項目・未検討項目の洗い出し

『2020年度アゼンブリ1改革案説明』 古澤 アゼンブリ教育ワークショップ「新しいアゼンブリ」のプログラム検証」19.7.16

# 第1回アセンブリ教育ワークショップ

## 【Group Work】 「バスは待ってくれない」

『概要説明』 アセンブリ教育センター 活動推進室員 米本 倉基



2020年度 アセンブリ I 模擬授業

**BUS** バスは待ってくれない

ファシリテーター  
リハビリテーション学科 米本

- 手順
  - ・導入(ねらい・課題および手順の説明) 10分
  - ・実習の実際(2ゲーム) 50分
  - ・ふりかえり用紙記入と話し合い 20分
  - ・まとめ 10分
- 計90分

●ねらい  
課題を達成していくチームの中での、コミュニケーションのあり方や協力過程を体験し学ぶ

文科省の高大接続改革

経験学習してほしいチカラ  
相手に関心を持てるチカラ・聴けるチカラ・質問できるチカラ

課題

花子さんの歯痛が止まりません。ところが、近所にある行きつけの歯医者はお休みです。隣町にも歯医者があるのですが、みんなが集めた情報はバラバラです。彼女を次のバスに乗せるために、情報をだしあい、分かりやすい1枚の地図にして花子さんに渡してください。隣町へ行くバスに乗るには花子さんへ20分後までに地図を渡さないと乗る遅れてしまいます。

## ゲームの内容



## ルール

- ・花子さんに渡す地図は「A3の紙」に書き、道順を指示してください。
- ・各自がもっている情報は口頭のみで伝えて下さい。他人の情報カードを見たり、自分の情報を他人に渡したり、見せたりしないでください。
- ・情報を皆が見えるように紙にメモしたりうつすことはできません。

## 成績

- ・完成したら 教室のファシリテーターのもとに地図を持って行ってください。
- ・地図が正確であればゲームは終了です。完成するまでゲームは続きます。
- ・成績は「正確性」「時間の速さ」で決まります。

## 体験者と観察者



体験実践者  
6名



観察者  
2名

## ふりかえり と この授業の評価

- ・ふりかえり用紙で自己フィードバックをかけましょう
- ・観察者からこの授業について「気づいたこと」を聞きましょう
- ・この授業の導入についてでディスカッションしましょう

## 2020年度 アセンブリ I ファシリテーター(予定)

米本・大橋・若月・大江・服部

### ◆教材準備◆



### ◆指導訓練◆



お疲れ様でした

「バスは待ってくれない。」

### 課題とルール

課題： 花子さんの歯痛が止まりません。ところが、近所にある行きつけの歯医者様は休みです。隣町にも歯医者様があるのですが、みんなが集めた情報はバラバラです。彼女を次のバスに乗せるために、情報をだしあい、分かりやすい1枚の地図にして花子さんに渡してください。

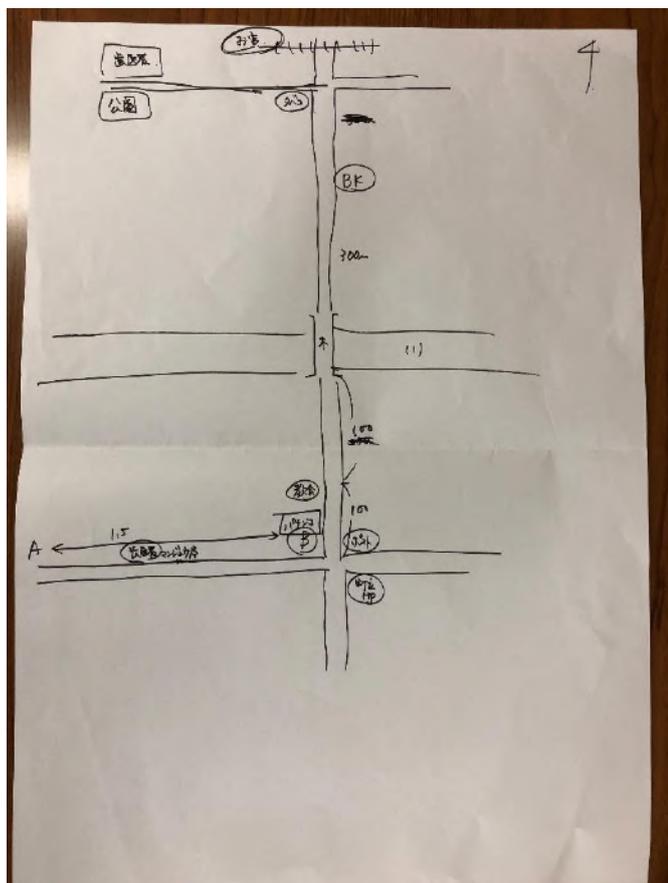
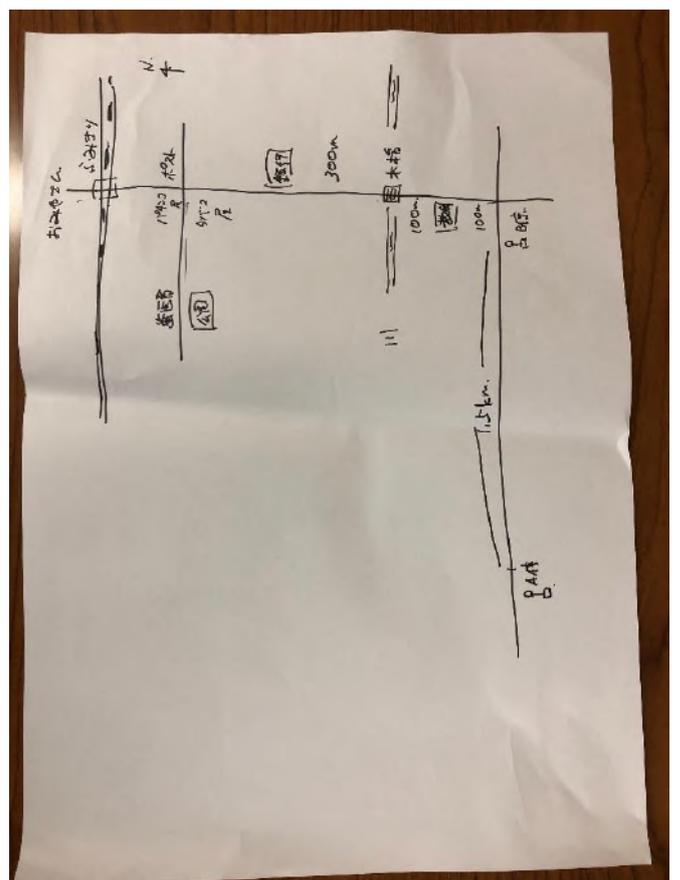
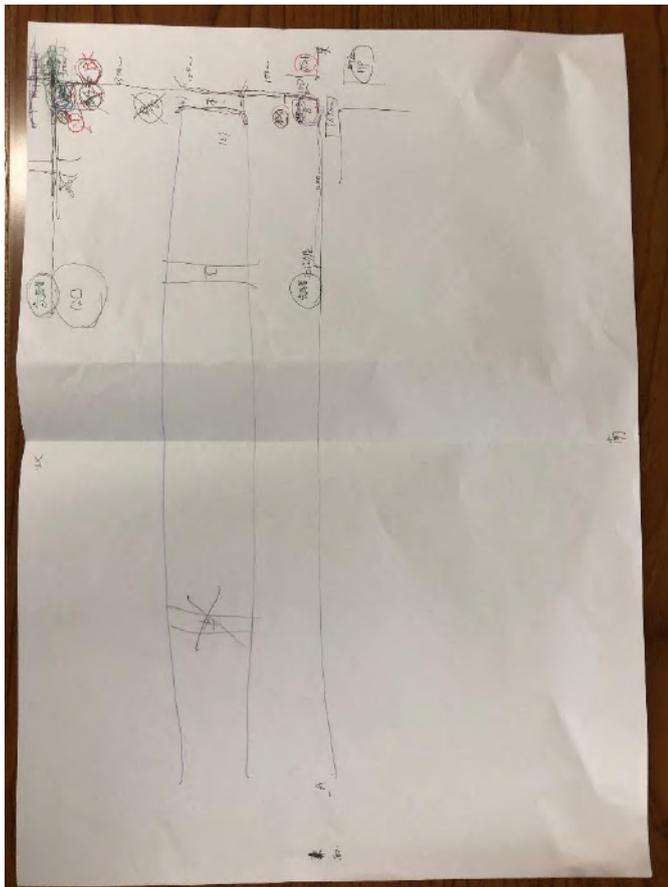
隣町へ行くバスは、50分後に出発します。

- ルール：
1. 花子さんに渡す地図は模造紙に書き、道順も指示してください。
  2. 各自がもっている情報は、口頭で伝えて下さい。他人の情報カードをみたり、他人に渡したり、見せたりしないでください。
  3. 情報を皆が見えるように黒板や模造紙に書きうつすことはできません。

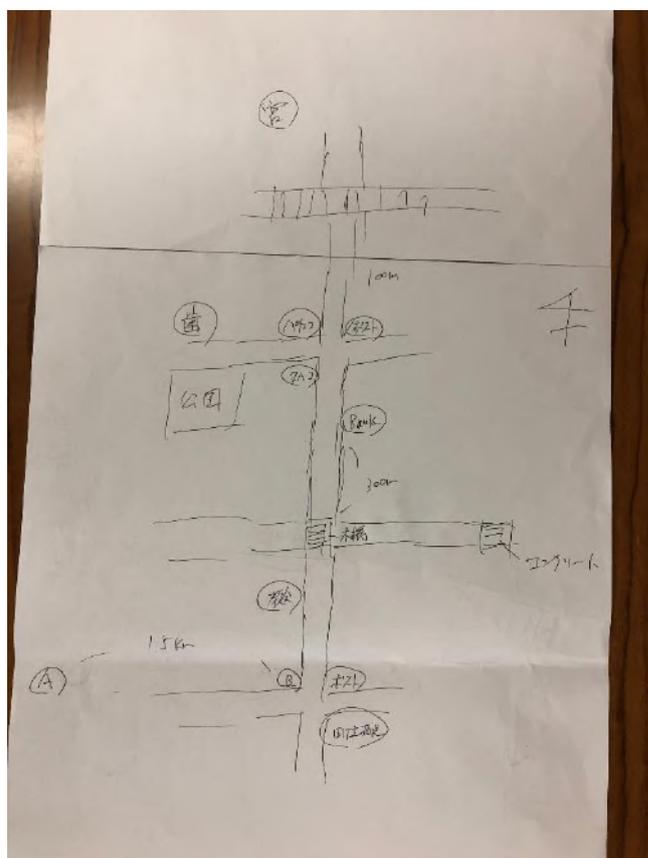
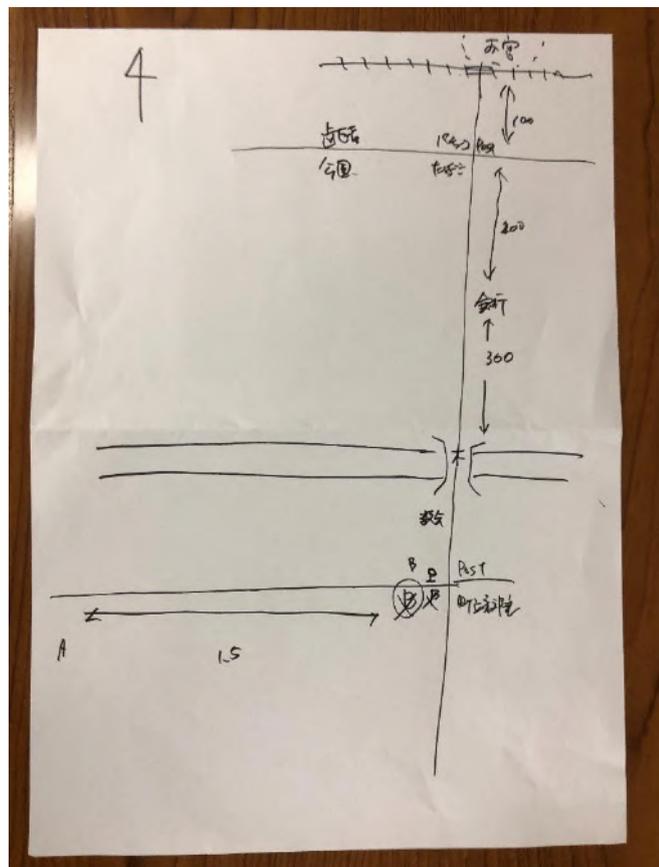
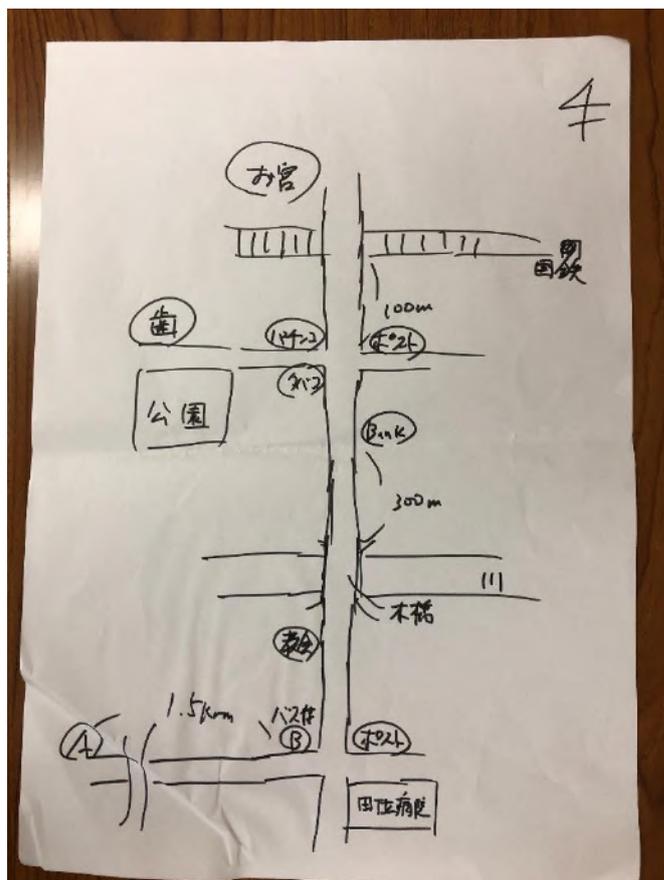
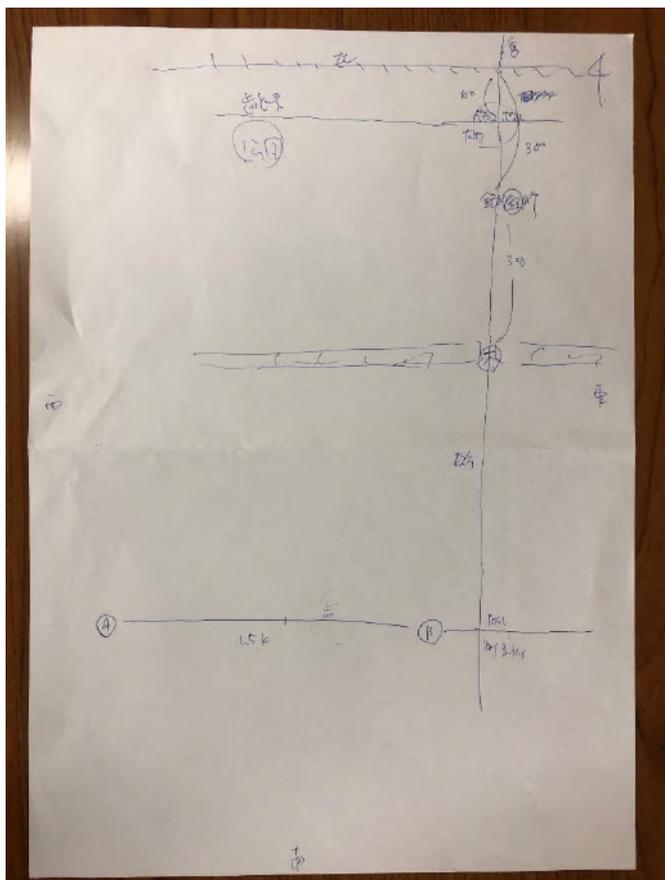
ワーク中の様子



情報カード1による各チーム解答



情報カード 2 による各チーム解答



「バスは待ってくれない」を経験した上で、本形式実施上で想定される問題を自由にあげてください。

■受講生（学生）について

想定される学生の反応（個性、本学学生の特性、学科・学部の違いなど）、特別なケアが必要なケースなど、想定すべき問題

A チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 グループ6 人は多いのでは？初回は特に逃げる可能性があるため4 人ぐらいはどうか？</li> <li>・遠慮しながらになってしまうため全員が納得しながらできるか？そのため人数を検討すべき。</li> <li>・初対面のメンバー構成となるためアイスブレイクが必要ではないか。</li> <li>・話すためのものだけでないコミュニケーションツールは？</li> <li>・地図を書く人は受け身になりやすい。</li> </ul>
B チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消極的（やる気なし）学生 } 学生間 or ファシリテーター教員</li> <li>・内向的學生 }</li> <li>・1 回目の振り返りを活かして2 回目（別課題）を行う。</li> <li>・振り返りが時間内に終わらない場合の対応→当日 or 翌日 OK</li> </ul>
C チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルール違反（ルール説明と行う意義の説明をしっかりと）</li> <li>・コミュ能力の低い学生は、やはりづらいか。</li> <li>・話を聞かない（スマホをいじるなど）の学生が出てくるのでは。 →グループをシャッフルしても2~3 回に1 回ほど。</li> <li>・発達障害の学生がいた場合、先にグループ学生に伝えた方がいいのか、タイミングが重要。</li> </ul>
D チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おしゃべりが苦手が心配。</li> <li>・時々欠席する学生をどうするか。</li> <li>・意見を言えない学生への対応。</li> <li>・空気を乱す学生。</li> <li>・スピードについていけない。</li> <li>・医学部ばかりが引っ張る。（名札を敢えて外す。）</li> <li>・アイスブレイク</li> <li>・班を変えた方が良い or 変えない方が良い。</li> <li>・もっと簡単なものを1 度体験</li> </ul>

■ファシリテーター（教員）について

ファシリテーターやサポート教員としてかかわる場合に不安に思うこと

A チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図を作る目的ではなく、コミュニケーションを築くことが目的だが何を介入すべきか？</li> <li>・時間配分をどうコントロールするのか？話し合いの途中でどう介入するか？</li> <li>・振り返りを共有させないのか？</li> <li>・一人の教員が5~6 グループ見渡せた方が良いのでは？</li> </ul>
B チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポート教員一人当たりの受け持ち班</li> <li>・促すタイミング、内容の統一</li> </ul>

C チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5 部屋で行う場合、5 人のファシリテーターの基準は併せないといけない。→インセンティブ</li> <li>・ ファシリテーター側のトレーニングが必要</li> <li>・ 説明の充分さ</li> <li>・ 介入のタイミング</li> <li>・ ルールを守らないグループへの関わり方</li> </ul>
D チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人数が多く必要</li> <li>・ 一部屋 4 グループ、もう一部屋</li> <li>・ サポートが必要な学生への個別対応</li> <li>・ 上級生をサポートにつける（アセンブリ II）</li> <li>・ 説明の単純化、アクションカード</li> <li>・ 一度体験するべき</li> <li>・ 部屋毎に内容が違わないよう</li> </ul>

### ■時間・場所について

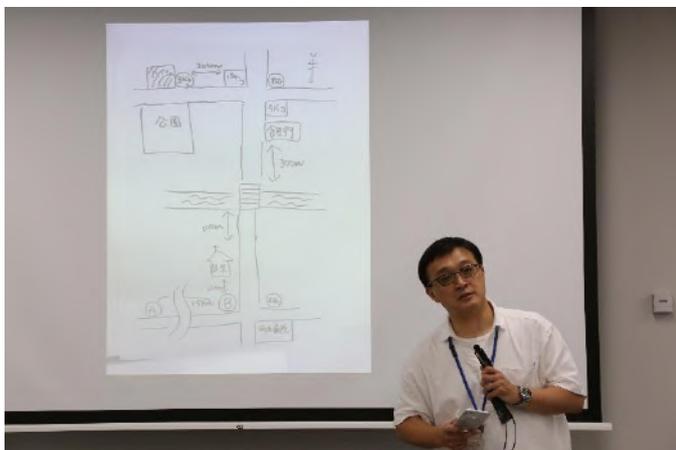
座学・ワーク・振り返りの時間配分・場所について考慮すべき問題

A チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 練習があっても 2 回目があってもいいのでは？（人間関係作りも含め）</li> <li>・ 先に簡単なものか、難しいもので失敗させるか？</li> <li>・ 1 回目の応用を 2 回目に充てた方が効果的</li> <li>・ 1 回目をアイスブレイクにする？</li> </ul>
B チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイスブレイクで班員の緊張を解く。</li> </ul>
C チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今の学生は声が小さいのでグループのシマを離す必要がある。</li> <li>・ 簡単なワークをさせてから本題に入るのはいいと思う。</li> <li>・ 6 人はよい。</li> <li>・ 紙はもっと大きく。書く人の位置。</li> <li>・ 見知らぬ学生が集まるともっと時間がかかる。</li> <li>・ 4F の部屋は十分可能だと思う。</li> </ul>
D チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回振り返り</li> <li>・ 1 教室 120 人は多い。</li> <li>・ 達成感のみで終わらせない。</li> <li>・ “ふりかえり”をどう機能化するか。批判的になる？</li> <li>・ 順番を付けない方がよい。</li> <li>・ 競争心を煽りすぎない方がよい。</li> </ul>

## ■カリキュラムについて

各学部のカリキュラム・時間割との関わりにおいて検討すべき事項

A チーム	・ 90分は難しい。(アイスブレイクなし、ルール説明)
B チーム	・ カリキュラム：3、4限が該当？を2Wに1回頻度 ・ 委員会、教授会：16：30～ ・ 合否のつけ方、留年者の取り扱い ・ 点数の付け方←教員がつける場合の受け持ち班の把握
C チーム	・ 教員も4限後に委員会や会議があり無理ではないか。 ・ 90分で終われるなら。
D チーム	・ 時間を短く/長く→会議を移動させる？



## 第1回アセンブリ教育ワークショップ

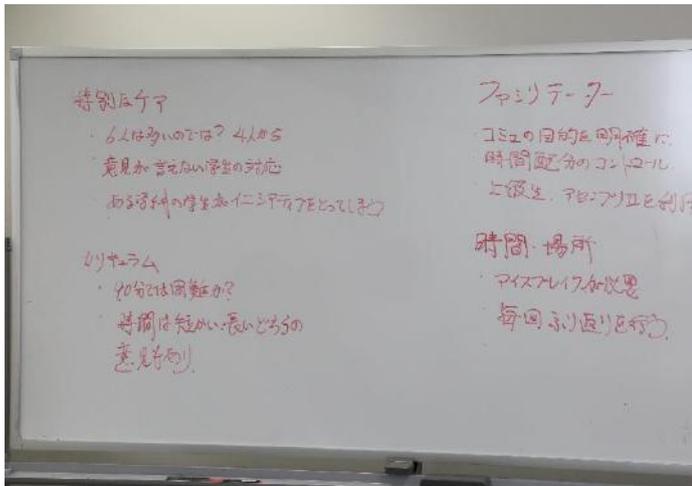
### 【Discussion Meeting】2020年度アセンブリ | 改革に対する意見交換

三重大学医学部三重県総合診療地域医療学講座 助教 後藤 道子 先生



# 第1回アセンブリ教育ワークショップ

## 【Closing】まとめ 総評



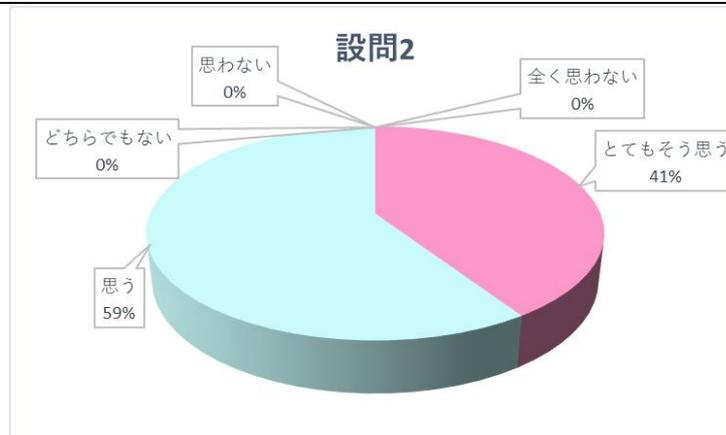
## 第1回アセンブリ教育ワークショップ

### アンケート結果

設問1 アセンブリ教育センターにおける所属を教えてください。

選択肢	人数	選択肢	人数
① I 関係	4	①②③に所属	1
② II 関係	3	②③に所属	1
③ III 関係	5	②④に所属	1
④ IV 関係	4	③④に所属	1
⑤ 戦略企画関係	2	記入無し	2
⑥ 事務関係	3		

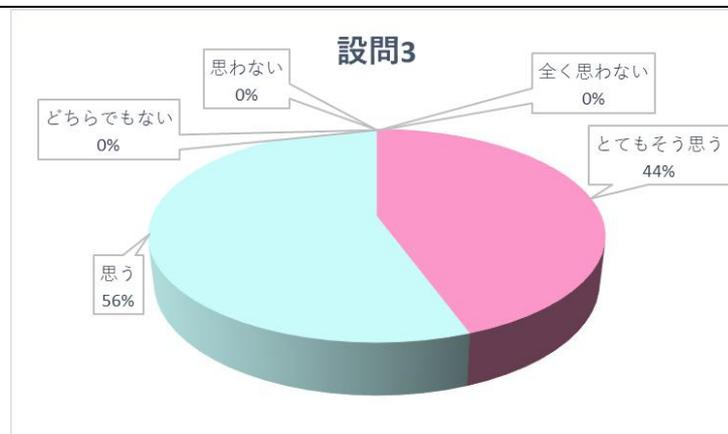
設問2 Mini Lecture「2020年度アセンブリ1改革案説明」に参加して、新たなアセンブリ1に対する理解が深まったと思いますか？



#### コメント

- ・方向性の共通認識はできたのでOKです。
- ・完全ではないが理解できた。
- ・方向性が分かった。
- ・ファシリテーターとしての役割がまだ理解できていない。

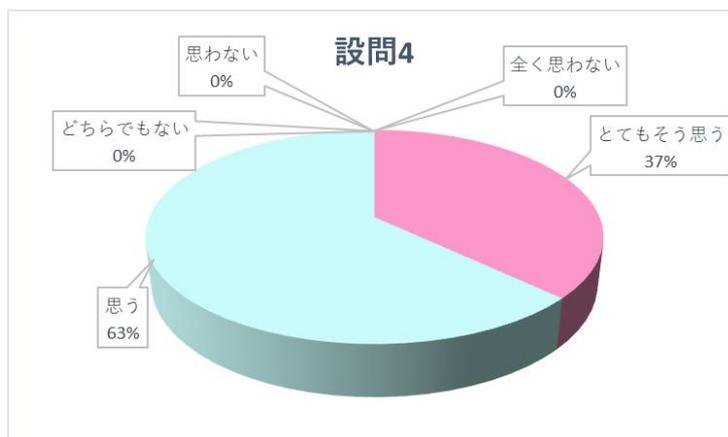
設問3 GW「バスは待ってくれない」に参加して、新たなアセンブリ1に対する理解が深まったと思いますか？



#### コメント

- ・コミュニケーション重視という点を上手く説明する必要があると思った。
- ・目的・問題（進行上）理解
- ・楽しくやれた。他のワークもやってみたい。
- ・学生に求めるコミュニケーション能力がどこまで必要なのかが体験して分かった。
- ・全て6人の体験学習になるのではないかという不安。3人が基本か。

設問4 Discussion Meeting「2020年度アセンブリ1改革に対する意見交換」に参加して、新たなアセンブリ1に対する理解が深まったと思いますか？



#### コメント

- ・まだ理解できていない教員が多いのではないか。
- ・また課題も様々あることが共有できたと思った。

設問5 本WSを通して、新たに実施するアセンブリ1の目的や実施内容に関して理解が出来ましたか？  
(自由記載)

- ・主旨は認識しているつもりだが、具体的な計画に作り上げていくには場所、評価の仕方等今後検討の必要がある。
- ・実施内容について、GWに参加したのみであるため理解には至らなかった。
- ・理解できた。
- ・計画立案はお任せすることにして、運営するかもしれない側として心構えができた。
- ・説明、グループワーク、ミーティングを通して理解できた。
- ・ゲーム感覚で取り組めてよかった。1回目→改善（振り返り）→2回目（よく似た内容）できると良い。
- ・やるしかないんですね。そんなに大切ならトップダウンで時間割を変えれば。
- ・漠然と「コミュニケーション」と唱っていた部分が明確になった。それをⅠからⅡ、Ⅲ、Ⅳへどうつなげていくか、どう発展していくか。
- ・1年生の段階でのコミュニケーション授業は必須。
- ・アセンブリ1で何を目的としているか理解できた。
- ・どんどん良い方向に動いていたと思う。
- ・よかったです。
- ・他の課題も見てみたかった。

設問6 新たなアセンブリ1に期待すること、あるいは不安なことは何ですか？（自由記載）

- ・高校時代にGWなど実施したことのない学生なので、GWそのものができるかも不安だ。チームワークの学びにGWは必須なので早くから慣れてもらうのも大切。
- ・振り返り時間の確保、共有をどのようにしていくかももう少し検討したかった。
- ・アセンブリ1のエンドポイントをどこにするのか？（アセンブリ2との接続）1回目に全体講演で発達障害を含めての多様性の講義を行ったらどうか。目的は多様性の理解。
- ・しっかりと教育効果を上げること。
- ・無理なく継続可能なものにしていただくと有難い。
- ・アセンブリに係わる教員を見える化することは賛成です。それでも研究は求められることに代わりはないように不安です。
- ・コミュニケーションの基本が身につくことを期待する。消極的な学生への対応を考えておく必要があると思う。欠席者への対応についても。
- ・発言できない学生への対応が難しい。
- ・教員のリクルート/今回の教員以外の協力が得られるか。
- ・ファシリテーターの量と質がある一定の力量が求められる。
- ・できた。
- ・コミュニケーションに対する理解が高くなること。
- ・学生の反応が見てみたい。
- ・効果測定？
- ・「コミュニケーション演習」については素人であること。
- ・カリキュラムの組み方。各学科の時間割。実施場所の確保。
- ・どれくらいの学生が積極的に参加してくれるかが少し不安である。
- ・体験学習に対する理解が浅い。
- ・1年生の段階でコミュニケーションの技術が備わることで、今後のアセンブリ2~4にもつながると感じた。アセンブリの負担が心配になった。またアセンブリ1の事務作業も多く負担が心配になった。
- ・担当者のモチベーションを保つためにインセンティブの導入は必須。
- ・コミュニケーションについては一定の効果が上がるだろうと思われる。3、4限続きになると恐らくアセンブリ1には参加できないと思う。
- ・学生の参加

設問7 WS全体の中で良かった点、あるいは改善が必要な点は何ですか？（自由記載）

- ・具体的に実施することで授業が見えやすかった。
- ・全体議論の時間をもう少し取り、全体での話し合いをした方が良かったと思った。
- ・特になし。
- ・構成が良かったと思う。
- ・午前だけ、午後だけ、あるいは平日でも可能だったのでは？
- ・全教員へのアナウンス
- ・メンバーの人数は適切であった。参加者のモチベーションが高かった。

- ・目的をはじめに述べていただけたので内容が理解できた。部屋の空調（寒い）を改善してほしい。話を聞く状況ではなかった。
- ・良かった点：学生が行うことを体験できたこと。改善が必要な点：時間延長
- ・今年度の全学活動における「コミュニケーション」（前野先生）の様子を知りたかった。
- ・様々な意見が聞けたこと。
- ・体験学習の一部を体験できたこと。
- ・新アセンブリ 1 の内容、課題などがわかり良かったと思う。
- ・新しいアセンブリ 1 を実体験して問題点の抽出ができた。
- ・概ねよかった。
- ・いい議論の場になった。

設問 8 WSに参加された感想・意見ををお願いします。（自由記載）

- ・もう少し深い議論を長くしたかった。
- ・楽しく参加させていただいた。
- ・他者の意見が共感、新たな理解に達した。
- ・アセンブリに対する理解が深まった。
- ・アセンブリ 1 の変化が理解できた。
- ・忙しい中準備有難うございました。
- ・初めてのGW「バスは待ってくれない」がとても有意義であった。カリキュラムの問題を上手く解決できるよう願っています。
- ・発達障害への対応は慎重にお願いしたい。診断を受けている人、手帳を持っている人はほとんどいないはず。周りがそうではないかと思っているレベルで対応するのは危険です。急にレッテルを貼っただけになる。どんなタイプの学生でも参加できる工夫が重要と思う。
- ・アセンブリの具体的なことが分からない状態だったが、今日時間を設けていただきイメージでき、目的等よく理解できた。
- ・お弁当がおいしかった。
- ・よかった。発達障害への対応は深刻と思う。
- ・良かったです。





藤田医科大学  
2019年度 第1回アセンブリ教育ワークショップ

2019年8月発行

編集・発行：藤田医科大学 アセンブリ教育センター  
印刷・製本：大学事務局 総務部庶務課 教育情報企画室